

はじめに

戦史研究センター長

庄 司 潤 一 郎

2013（平成 25）年 7 月 27 日は、朝鮮戦争の休戦協定が板門店で締結されてから丁度 60 年にあたる。米国では、太平洋戦争やベトナム戦争に比べ注目されず、“The forgotten war”（「忘れられた戦争」）と称される朝鮮戦争であるが、近年韓国でも、朝鮮戦争に関する記憶の風化が進み、中高生の 53 パーセントが朝鮮戦争の開戦年を知らないという世論調査の結果が公表された（『読売新聞』2013 年 6 月 25 日）。

他方、冷戦終結後も朝鮮半島の分断は続き、最近も北朝鮮の動向をめぐって緊張が高まっており、現在のこうした東アジアの戦略環境の原形を形成したという意味において、朝鮮戦争の研究対象としての重要性は失われていない。

一方、戦史研究センター（旧戦史部）は、従前より朝鮮戦争に関する調査研究を組織的に実施するとともに、2000 年から韓国のカウンターパートである国防部軍史編纂研究所と「日韓戦史研究交流」を行っている。

そこで、この度、休戦協定 60 年の節目に、これまでの防衛研究所における朝鮮戦争に関する調査研究の成果の中から、特に日本との関連を分析した論文を集大成して、改めて公表する次第である。

論文は、1 本を除きすべて防衛研究所の媒体に既に発表されたもので、したがって原則的に大幅な加筆・修正は行っていない。各論文の初出は、以下の通りである。

第 1 部 日本への貢献

第 1 章 朝鮮海域に出撃した日本特別掃海隊—その光と影—

（『戦史研究年報』第 8 号、2005 年 3 月）

第 2 章 朝鮮戦争と日本の関わり—忘れ去られた海上輸送—

（『戦史研究年報』第 11 号、2008 年 3 月）

第 3 章 朝鮮戦争と日本の港湾—国連軍への支援とその影響—

（『防衛研究所紀要』第 9 巻第 3 号、2007 年 2 月）

第 4 章 朝鮮戦争における後方支援に関する一考察—仁川上陸作戦に焦点を当てて—

（平成 24 年度調査研究、初出）

第2部 「再軍備」

第1章 朝鮮戦争と警察予備隊－米極東軍が日本の防衛力形成に及ぼした影響について－

(『防衛研究所紀要』第8巻第3号、2006年3月)

第2章 戦後日本の海上防衛力整備(1948～52年)

－海上防衛における日米の「役割分担」の起源－

(『戦史研究年報』第9号、2006年3月)

第3章 戦後日本の航空兵力再建－米国の果たした役割を中心として－

(『防衛研究所紀要』第9巻第3号、2007年2月)

第3部 日本に及ぼした影響

第1章 朝鮮戦争と日本－アイデンティティ、安全保障をめぐるジレンマ－

(戦争史研究国際フォーラム報告書

『朝鮮戦争の再検討－その遺産－』、2007年3月)

第2章 朝鮮戦争と日本の対応－山口県を事例として－

(『防衛研究所紀要』第8巻第3号、2006年3月)

第3章 朝鮮戦争と日本の対応(続)－山口県を事例として－

(『防衛研究所紀要』第10巻第2号、2007年12月)

最後に、今回の企画に際して、日本における朝鮮戦争研究の第一人者である慶應義塾大学の赤木完爾教授に特別寄稿をいただいた。伏して感謝申し上げる次第である。